

## 恋路火祭り

=恋路地区= 7月27日

2基のキリコが海上で寄り添い、悲恋伝説の2人の霊を慰める。「がんばれ日本」の火文字の後は、幻想的にゆらめく小松明と燃えさかる大松明が弁天島を照らす。その幻想的空間の中、観客は恋路伝説に思いをはせる。



今年の夏も、能登町各地では夏祭りが鮮やかに、勇壮に、そして幻想的に行われました。先人が築きあげた「祭り文化」は、地域活性化の原点でもあります。祭りを地域の宝として、これからも大切に傳承されるよう4つの祭りをレポートします。

# 夏祭

Photo Report

## どいやさ祭 = 姫地区 = 7月26日

午後10時ごろ、6基の袖キリコが姫漁港に集結。海上のステージで弥榮太鼓が打ち鳴らされた後、3基の袖キリコが次々と伝馬船に担ぎ上げられる。「ヨイトショー」のかけ声に合わせ、見事に船に乗せられる巨大な袖キリコの迫力に観客は圧倒される。そして、海面に浮かび上がる袖キリコの幻想的な雰囲気に魅了される。



## にわか祭

= 鶴川地区 = 8月24日

各町内の絵師を中心に、毎年約1週間かけて巨大な武者絵が描かれる。午前0時、海瀬神社に集結した8基のにわかは、弁財天に婿入りするために勇壮に乱舞する。時に全速力で動く、にわかに合わせて早いリズムの太鼓やかねも、祭りの激しさを加速させる。



## 松波人形キリコ祭り

= 松波地区 = 7月26日

各町内趣向を凝らした人形がキリコの前面を飾る。今年は鉄道橋の撤去によって半世紀ぶりに全町内のキリコが通った場所もあった(写真下)。午後3時、10基のキリコが内浦福祉センター前に集結し、今年の人形の出来栄を競った。



# NotoSports

## この夏、全国に挑んだ小中学生

猛暑が続いた2008年夏。スポーツでも能登町子どもたちは熱い戦いを繰り広げた。県大会、北信越大会など、厳しい予選を勝ち抜いて、この夏全国の舞台に挑戦した小学生、中学生を取材した。



### 郡大会、県大会で大会新記録 野球少年が陸上で全国の舞台へ

野球チーム「高倉チーターズ」に所属する国谷翔汰君（真脇小学校6年）が、陸上ソフトボール投げで全国小学生陸上競技交流大会の出場を決めた。

6月の郡大会に100g、走り幅跳び、ソフトボール投げの3種目にも大会新記録で優勝。7月の県大会ではソフトボール投げを選び、郡大会の記録を7g以上更新する71g16の大会新記録で優勝した。

野球では時速120gに近い速球を投げる強肩だが、その速球を捕れるキャッチャーがいないういっちゃん投手のようない。打順は3年生のときからずっと1番。出塁率は7割以上で、必ず3塁まで盗塁するといいういっちゃん投手のようない。

高倉チーターズを30年指導している田中監督は「たくさんの身体能力はさすがにすごい。まさにスーパー小学生」とその運動神経に太鼓判を押す。

「大会では80g以上投げたい。1投目が勝負」と力強く宣言した国谷君。全国の舞台でその能力をさらに開花させる。

第24回全国小学生陸上競技交流大会 (8/30)  
ソフトボール投げ

**01 国谷 翔汰**  
Kuniya Syouta 真脇小6年

02 第25回全日本小学生ソフトテニス選手権大会 (8/7～8/10)

## 橋本 遥

Hashimoto Haruka 鵜川小6年



## 中田 依緒里

Nakada Iori 鵜川小6年

春の全国大会で準優勝した橋本・中田ペア。県大会では個人戦で準優勝し、全国の切符を手にした。8月7日から熊本県で行われた全国大会では、春以上の成績が期待されたが、個人戦3回戦敗退。しかし能登町の2ペアが選抜された団体戦では石川県代表が3位入賞を果たした。

「緊張してプレッシャーに負けた」と一人は口を揃える。指導する當目昌次郎コーチも「精神面のもろさが出た。試合であと1本が取れなかった」と悔しがる。

「全部直してもっとうまくなりたい」（橋本さん）  
「思いっきりプレーできるよになりたい」（中田さん）  
新たな目標を持った二人は、これからもっと強くなる。

03 第25回全日本小学生ソフトテニス選手権大会 (8/7～8/10)

## 井田 真季

Ida Maki 鵜川小6年



## 宮前 貴子

Miyamae Takako 鵜川小6年

県大会3位で全国大会に出場した井田・宮前ペア。春の全国大会には2度出場し今年はベスト8に入賞したが、夏の全国大会は初出場だった。春以上の成績を目標に掲げ挑んだ全国大会では、4回戦敗退のベスト32。「あと一つ勝ってれば勢いに乗れた」と當目コーチは分析していた。

橋本・中田ペアとともに挑んだ団体戦では、東京、青森、島根、埼玉に勝利。準決勝では優勝した和歌山代表に惜しくも敗れた。

「悔しかった。中学校でも頑張りたい」（井田さん）  
「緊張しないよう自信をもって試合に臨みたい」（宮前さん）  
小学校での残りの大会はあと3つ。二人の活躍に期待したい。

## 寺下 洸平

Terashita Kouhei 鷺川中3年

## 浜高 彰仁

Hamataka Akihito 鷺川中3年

県大会、北信越大会と個人戦で優勝し、北信越ナンバーワンペアとして全国に挑んだ寺下・浜高ペア。全中の舞台は1年生の時に団体で出場して以来の2度目。しかし全国大会では1回戦で奈良県代表のペアにファイナルセットで敗れた。

寺下君は「できることができなかった」と話し、浜高君は「緊張して体が動かなかった」と大会を振り返る。二人を指導する當日コーチも「自分たちのテニスができなかった。実力があるだけに残念」と悔しがる。

その実力は、現在国体強化選手として高校生としてのぎを削っているという事実が証明している。「あっという間だった」という中学を卒業し、それぞれの道へ進んでも、二人は石川県を代表する選手としてコートに立つだろう。

## 岩崎 加奈

Iwasaki Kana 能都中2年

## 佐々木 美和

Sasaki Miwa 能都中2年

能都中学校の佐々木・岩崎ペアが、県大会個人優勝、北信越大会3位という成績で全中出場を決めた。

全国大会は8月19日に富山県高岡市で行われ、2回戦で群馬のペアにファイナルの末に敗れた。佐々木さんは「レシーブミスが多かった」と試合を振り返り、岩崎さんは「もっと自分から決めにいきたい」と課題を見つけた。指導する西吉和コーチは「ここ一本の勝負に弱い。課題は精神面」と指摘する。

部員6人全員が2年生という能都中ソフトテニス部にとっては来年が勝負の年。「団体で全中に出場する」という目標に向かって、6人は今日も藤波の台地でボールを追い、ラケットを振る。

## 04 小木クラブ

小木小学校 20人

チーム一丸の攻めるドッジで  
5年ぶりの全国大会出場



17年前の第1回大会で優勝し、全国に小木旋風を巻き起こした小木クラブが、5年ぶり8回目の夏の全国大会出場を決めた。実力が拮抗(きつこう)している県内のチームの中でも、単独校での出場はわずか2チーム、体格も小さい方という小木クラブだが、伝統でもある『攻めるドッジ』でチーム一丸となって県予選を勝ち抜いた。

17年にわたり県内トップの実力を維持し続けている小木クラブ。監督の河元智志先生は「保護者やOB、地域の協力があるからチームが強い」と地域のサポートに感謝する。

2年生からドッジボールをはじめたというキャプテンの浦下宗輝君(6年)は大会直前の取材で「相手を全滅させたい。全部勝ちます」と力強く語ってくれた。

8月17日、東京体育館で行われた全国大会では、予選で福岡、山梨、群馬の代表と対戦。2勝1敗で予選を突破したが決勝トーナメント1回戦で沖縄代表に惜敗した。現チームで初めて経験した全国の舞台。今回の経験と悔しさをバネに、春の全国大会に向けた小木クラブの新たな挑戦が始まる。

### 取材を終えて

この夏全国大会に挑戦した小中学生を取材した。全国の舞台に立つ子どもたちにとって、楽しみであるはずの夏休みは、毎日の厳しい練習に変わる。泣きながら、歯を食いしばりながら、少しでも強く、うまくなろうと必死に練習する子どもたち。少子化が進み、どの種目も競技人口は減り続け、選手層は薄くなるばかり。それでもこれだけの子どもたちが石川県や北信越の代表として全国大会に出場している。その努力は並大抵のものではない。

頑張る子どもたちは輝いている。その輝きに触れると心の底から応援したくなる。そして自分ももっと頑張れるような気持ちになる。子どもたちの輝きが、この町に元氣と勇気を与えてくれる。この町に住む大人の一人として、これからも頑張る子どもたちを応援していきたいと強く思った。

*Dream Come True*



## 前になる相撲で県大会3位入賞 11年ぶりに全国の舞台へ

七尾市で開催された第38回全国中学校相撲選手権大会に松波中学校相撲部が出場した。7月の県大会では予選を勝ち抜き、上位8チームでの決勝トーナメント1回戦でも勝利、ベスト4となり開催都道府県出場枠での出場が決まった。

松波中学校相撲部としては、11年ぶりとなる全国の舞台。部員7人は一丸となって厳しい練習に取り組んできた。

「初めての全国大会。一戦一戦集中してやりたい。」

大会直前、キャプテンの木谷稔君は意気込みを語った。顧問の焼塩伸輔先生も「3年生を中心にまとまったチーム。大会で

は一つでも多く勝ってほしい」と期待を寄せた。

8月23日から行われた大会では、予選を2勝1敗で突破したのが決勝トーナメント1回戦で沖縄県代表に敗れた。指導する坂下昭徳コーチは「予選1、2回戦は3対0で勝つなど選手たちは一生懸命戦っていた。この先も相撲を続けてほしい」と全国大会での健闘をたたえた。

- 後列左から  
藤田智宏 (3年)  
中平翔伍 (3年)  
木谷 稔 (3年)  
濱大巧未 (3年)  
前列左から  
浅井健吾 (2年)  
中平竜至 (2年)  
宮下和也 (1年)

第38回全国中学校相撲選手権大会 (8/23・24)

## 07 松波中学校 相撲部 (7人)